

⑥3 石井水門建設工事

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所

キーワード 重要文化財、石井閘門、保存

全建賞審査委員会の評価ポイント

旧北上川の堤防整備の一環として、石井水門を設置する事業。重要文化財の「石井閘門」を保存しつつ、視覚的な連続性を踏まえて水門の構造検討・整備を実施しており、安全性の向上と交流の場の形成の両者に寄与している点が評価された。

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の揺れや津波により東北地方の太平洋沿岸部の地域を中心に甚大な被害が発生した。

旧北上川河口部の宮城県石巻市においても沿岸部・沿川部では津波の直撃を受け、多数の一般住家が流出・倒壊したほか、市立病院や文化センターなどが使用不能となり、市の中心部の市役所周辺も数日にわたり浸水するなどの大きな被害が発生した。

これを受け、北上川下流河川事務所では宮城県や地元石巻市などの関係機関と連携しながら、旧北上川河口部復旧・復興事業を進めることとしたものである。

2. 事業の概要

旧北上川河口部復旧事業では主に旧北上川河口部の堤防整備や震災で被災した河川管理施設の復旧等の事業を行うこととなったが、復旧・復興区間の一部に国の重要文化財に指定されている石井閘門が含まれていた。

石井閘門は、旧北上川と北北上運河との合流点に明治13年に建設された舟運のための施設であったため、ゲート天端高は旧北上川の計画堤防高より約2m低く、堤防機能を有していないこと、また、重要文化財であること



石井水門（手前）と石井閘門（奥）

から水門機能の確保のための嵩上げ等の部分改築を行うことは困難という判断から、石井閘門の旧北上川側に石井水門を建設することとした。

3. 事業の成果

石井水門建設により、重要文化財である石井閘門をそのまま保存しつつ、洪水や津波が発生するなど緊急時には堤防機能を確保することが可能となったことから、地域の財産を後世に残すことが可能となるとともに、地域の安心・安全がさらに高まった。

4. おわりに

石井水門は令和2年10月31日、さわやかな秋晴れの中、新型コロナウイルス対策を十分に行いながら、完成式典を行った。

式典では亀山紘石巻市長（当時）や保全対策検討委員会の委員である貞山・北上・東名運河研究会代表世話人の後藤光亀氏に祝辞を賜るとともに地元の小学生と一緒に関係者でテープカットや記念植樹の他、カヌーによる通船等を行い、明治と令和の歴史が融合する新たなスポットの完成を祝った。



石井水門完成式の様子

賛助会員 (株)東京建設コンサルタント、(株)新井組、升川建設(株)、旭イノボックス(株)